TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

生きることを考える　神の威光
詩篇 8 章

2022 年 4 月 23 日&24 日
ジェシー　セザリオ牧師

オンラインで礼拝されている皆さん、TBC 三郷、TBC ウエストトウキョウ、鳥取ワーシップサイト、TBC ハブ、関東プレインズ・バプテスト教会、スヴァ・バプテスト教会、トンガ・バプテスト教会の皆さん、こんにちは。主イエスに栄光あれ！お祈りしましょう

詩編 8 章
指揮者によって。ギティトに合わせて。賛歌。ダビデの詩。

[1] 主よ、我らの主よ　御名は全地でいかに力強いことか。あなたは天上の威厳をこの地上に置き [2] 幼子と乳飲み子の口によって砦を築かれた。敵対する者に備え　敵と報復する者を鎮めるために。[3] あなたの指の業である天をあなたが据えた月と星を仰ぎ見て、思う。[4] 人とは何者なのか、あなたが心に留めるとは。人の子とは何者なのか、あなたが顧みるとは。[5] あなたは人間を、神に僅かに劣る者とされ　栄光と誉れの冠を授け [6] 御手の業を治めさせ　あらゆるものをその足元に置かれた。[7] 羊も牛もことごとく、また野の獣 [8] 空の鳥、海の魚　路をよぎるものまでも。[9] 主よ、我らの主よ　御名は全地でいかに力強いことか。

詩篇 8 章は、私たちを真理の考察という旅に連れだしてくれるもう一つの詩篇です。神を経験して、私たちが何者かを知るため、そして神の永遠の計画のどこに私たちが当てはまるかを知るための瞑想に関する考察です。

詩篇 8 章では、神の計画、すなわち創造から成就、成就から完成までの神の計画が述べられています。これは喜びと祝福の詩篇です。ここでは神の偉業と敵への勝利、そして神の偉業と勝利に私たちがどのように関わっているかを教えています。

詩篇 8 章は、主イエス・キリストが**マタイによる福音書の 21 章**で引用しています。私たちはこの詩編をどのように理解すべきか、そして詩編の持つ不思議な力について深い洞察を得ることができます。そして今日のメッセージでは、**マタイによる福音書 21 章**を背景に、**詩篇 8 章**が驚くほど祈りと関係していることを見ていきます。

後に、神の計画の創造、成就、完成が**ヘブライ人への手紙**の著者によって公にされます。この著者が**詩篇 8 章**を引用するとき、私たちを**詩篇 8 章**の深い霊的真理をつまびらかにするステージ真ん中の最前列へ連れていってくれます。

なぜなら**詩篇 8 章**を読むと、まるで神の栄光を示すかのように、その中に明るく輝かしい光があることに気づくからです。ほんの少し足を止めて、その光の中心を見つめ、明るい光の中に何があるかを見極めれば――大した事ではありません――**ダニエル書**の王のように、光の中に「何者」かがいると気づくでしょう。そしておそらく、見えるだけではなく、イエスを知り、最終的にはあなたの人生に神の威光が存在することに気付くでしょう。

神とは何者か
詩篇は、主よ（O LORD）我らの主よ、で始まります。これは神が何者かを公言しているのです。以前このシリーズで学びましたが、全てが大文字の L-O-R-D はヤハウエ（YHWH）という名前の代わりであることを覚えているでしょう。テトラグラマトンの YHWH は、定義できない神の名であり「私はある」（I Am）を意味します。神の存在を示す永遠の公言です。

ダビデ王のように私たちも私たちの神「私はある」（I Am）が私たちの主 Lord、つまり大文字の L と小文字の O-R-D、だと信じることができます。この主は、彼が支配者であり、全ての物を永遠に支配することを意味します。その御名は実に素晴らしく、その威厳は地球全体に及んでいます。ダビデはまた、主の栄光は天でも見られると宣言しています。

神の栄光…神の栄光とは、何でしょうか？
神の栄光を簡単に定義すると、神の輝き、または神の充満、ということです。

主の栄光は、聖句のあらゆる箇所で語られています。聖書では最初に旧約聖書の**出エジプト記**で明確に語られています。モーセは、エジプトを脱した神の民に、神の栄光を見るだろうと告げます。そして彼らがはるか彼方の荒野で見たのは、雲間から射し込む一筋の光のごとき栄光でした。やがて、モーセは神と直接対話をする関係を築きます。文字通りの意味ではありませんが、人が友人と直接話すような感じです。そしてモーセは、神の完全な栄光を見たいと願うようになります。モーセは神の顔を見ることは許されておらず、見れば命はないと言われていました。そのため主は、モーセの目を手で覆い、栄光が傍を通り過ぎるときにその背中だけ見られるようにしました。つまり、神の栄光は、神の永遠の名が示すように、把握することも、定義することもできないのです。なぜなら事実上、永遠で限りのない神を表わしているからです。

説明：神は描けない
私は小学生の頃、カトリックの学校に通っていました。ある日、神の絵を描くという課題が与えられました。子どもにはなんだか楽しい事ですよね。

先生は白い紙を配りましたが、私はただ坐ってどうやって神を描こうかと考えていました。イエス様の絵はもうイースターに描いていました。そこで私はこれはイエスを描くのではなく、父である神を描く課題だろうと考えました。他の生徒たちを見まわすと、ほとんどが髭をたくわえた老人の絵を描き、また他の子達はまた十字架にかけられたイエスを描いていました、まあ、いいのだけど、彼らは無邪気な子供たちでした。でも私は本当に、神だ、神を描かなければいけないのだ、と思いました。でも、描けませんでした。椅子に坐っていた私の頭の中には光しか見えませんでした。まぶしくて、目の眩むような光です。もちろん、それは描けません。
時間になると、私は真っ白い紙の隅に自分の名前を書き、これが私の見たものを最も適切に表現していると思いました。芸術家のようなサインを書いて、紙を提出しました。でも先生はそうは思わなかったようです。私は校長室に呼び出され、父親と校長と一緒に、私が神についてどう考えているかを話し合わなければなりませんでした。
今となっては、小さな子供である私の神学的な信条を気にかけてくれたことを有難く思います。でもそれは私が想像出来た全てです。ヨハネによる福音書でも、神を見た者はいないと教えているのは事実です。

詩篇 8 章の 1 行目は**「私はある」**は天と地の主である、と言っています。この下界から天の上全てまでです。神の栄光がいかに壮大なものか、私たちには到底理解できません。彼の栄光と支配の限界さえ想像できないでしょう。なぜなら、彼は見える物も見えない物もすべて支配しているからです。

ああ、そういった話なら聞いたことがある！ と思うかもしれません。もう知っているよ…わかった、ありがとう、と。
しかし、それこそが、私たちが神について考えるうえで抱えている問題の一つであり、そして私たちの信仰の問題そのものでもあります。これは心の問題なのです。
そのことをかするだけでは、神が何者かという重みと重要性を無視することになります。神の威厳に思いを馳せることなく素早く先に進むことは、根本的な私たちの問題であり、死んだ石の心を持つ原因になります。

だからこそ、神の愛を慕うダビデは、神の尊厳について語り続けました。彼は主の主である神の威厳について、また自分自身の心の中の中で神の主権が及ぶ範囲について飽きることなく考えつづけました。私たちはそのように神にあって私たちの信仰を置き、また常にそうしなければなりません。

私たちはダビデからどのようにして彼が絶えず神の栄光の上に瞑想していたか学ぶ必要があります。それは神が大きな愛を注いでくださる人になるためです。

質問：瞑想はどこでするでしょう？（心の中）
そう、ここからです。

内省のための質問 1
あなたは立ち止まっていますか？ 驚いて思案していますか？ 神の威光や力や栄光の壮大さについて、心の中で瞑想していますか？

言い換えると、あなたは神が誰なのかを知るために十分留まることができますか？ 彼が神だと分かりますか？ あなたの神だ、と？
宇宙を理解したうえで神を正しい位置に置き、心の中で神を正しい視点で捉えることが、信仰の始まりであり、そして神への賛美です。これはダビデがしていることです。

応用 1
あなたがこうすること、そして絶えず礼拝することが応用です。聖書には、私たちは絶え間なく祈りつづけるように書かれています。つまり私たちはどちらもする必要があるのです。

あなたは、祈ることで神を賛美できると知っていましたか？ 心は、口を介して話します。
事実、まず神の御前で礼拝することなく、あなたの人生で超自然的な事をして、その場を収めてほしいと神にお願いすることはできないでしょう。なぜなら、正しい礼拝、つまり何よりもまず神を正しい位置に置くことが信仰であり、祈り始めるときに必要だからです。
あなたの心の中で純粋に神を賛美する、何者かである神のため、そしてこれが、あなたが神の御前で祈る前に必要な事なのです。

C.S.ルイスの弁を、現代の言葉で紹介します。「あらゆる祈りに先立つ祈りとは『祈るのが真の私でありますように。そして私が語りかけるのが真の神でありますように』です。」そしてルイスはこう続けています「感情の激しさ自体は、精神的な深さの証明にはなりません。もし私たちが恐怖の中で祈るなら、熱心に祈らなければなりません。」

言い換えれば、あなたが神が何者かを知り、その恐るべき力を理解すれば、ダビデのような関係を持ちはじめられるのです。あなたが神の心に適う人となり、祈りによって神に近づくためです。

主の祈りの応用
イエスは主の祈りを教える時に、私たちに教えてくださいました。それが、祈りが「天にまします我らの父よ！」で始まる理由です。主の祈りによると、私たちはその次に神に感謝し、糧を求めてから赦しを請い、最後に敵から守ってくれるように祈ります。

端的に言えばこうなります。毎日の祈りは、最も基本的な意味である形式にあてはめるべきです。
1）主または「私はある」が主であると公言し、主が何者であるかにより賛美して
2）感謝をささげて、糧を求める
3）罪を告白し、赦しを求める
4）最後に、誘惑や敵を退け守られるように、とりなしを祈る
これはイエスが私たちに教えてくれた日々の祈りの一部です。

あなたはこのようにしていますか？ 祈りは真剣なものです。敵、つまりこの地上の神は、遊んでいるわけではないことを忘れないでください。祈りは遊びではありません。だから私たちは、主は天の主であり、地の主でもあると公言する必要があるのです。そうすることで最初から正しく始めることが出来ます。

強いのは誰か？
詩篇 8 章には別の二元性があります。神の敵や復讐者と比べると、赤ん坊と幼児には大きな隔たりがあります。

詩篇には、彼らは人間の敵であるだけでなく、神の敵であると書かれていることに注意してください。その復讐者は、私たちが守ってくださいと祈っている悪魔という悪者です。そしてここでは、天使のような存在、天にいる堕落した天使について扱われています。
一体、天使は何人いるのか、つまり天国のぬしは何人いるのか考えたことがありますか？ 聖書の半分だけでも、天使が 300 回近く出てきます。聖書の普及によって、天使は非常に神秘的な存在となりながらも、聖書に示された真の姿を学ぶことが重要です。

祈りはまさにその存在との霊的な戦いに関わっています。私たちは、このような霊的な事柄について決して無知であってはなりません。聖書に名前が書かれている天使は 3 人だけです。ガブリエルとミカエル、そしてルシファー、最初の堕天使である悪魔です。

それだけでしょうか？
いいえ、あなたの想像より多いのです。それどころか、ヘブライ人への手紙の著者は、数え切れないほどの天使がいると言っています。

ヘブライ人への手紙 12 章 22 節
しかし、あなたがたが到達したのは、シオンの山と生ける神の都、天のエルサレム、無数の天使たち

聖書では、堕落して神の敵となった天使がいることを教えています。そして、それらの堕天使や霊が今この世の中で私たちの人生に影響を及ぼしているとも教えています。

テモテへの手紙一 4 章 1 節
しかし、霊が明らかに言われるように、後の時代になると、惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れる者がいます。

でもこの強力な悪の存在、つまり神とあなたの敵を沈黙させ、支配しているのは何でしょうか。

2 節によれば、彼らを支配し、沈黙させているのは、最も弱く柔らかな人間の赤ん坊に対する賞賛です。

マタイによる福音書 21 章：再び詩編 8 章とこれによって、イエスが詩篇 8 章で告げた話の中で何が起ったのか見てみましょう。それはこういうことでした。

イエスは、自分がユダヤ人の王であるとされた預言を実現するために、ロバを呼びます。すると、人々はイエスを主の御名によって現れた祝福された人だと認めはじめて、町全体が動いたのです。イエスと王を同一視する点が、詩篇 8 章の冒頭部分と似ていることに注目してください。

次にイエスは、人々を欺いているすべての悪を神殿から追い出します。その悪しき者たちは主の神殿、つまり神の祈りの家に住み着いているのです。

正しい礼拝は、詩篇 8 章にあるように敵を追い出します。
祈りが聞き入れられた結果として、目や足の不自由な人がキリストのもとに来て癒されます。子どもたちがイエスを賛美しはじめ、「ダビデの子にホサナ！」と言うのはとても素晴らしいことです。まるで 2 節のように。そうして祭司や律法学者は、イエスを自分たちの王と見なして賛美している人々に腹を立てます。彼らにはイエスの真の姿が分からないのです。それは、イエスが会った神の祭司たちが、悪霊の教義に欺かれ操られているからです。
彼らは驚いてイエスに、彼らがあなたについておかしな事をいっていると知っていますか？　といったことを質問します。
イエスは知っていると言って、「そうだ、詩篇 8 章で書かれているように、彼らは私を賛美しているのだ」と説明します。彼らは、あなたたちが知っているべきなのに、分からないでいる私のことを話しているのだ、と。彼らは悪に惑わされているので、イエスが誰なのか分からないのです。

さて、マタイによる福音書 21 章の話はつづき、その意図を満たしています。イエスは同じ場所に戻って来ます。そして一本の木を見て実を探すのですが、その木には葉っぱだけで実はありませんでした。イエスが望んでも何も実らなかったのです。そこでイエスは、その木が枯れて二度と実をつけないように呪いをかけました。実が生っていなかったのは、時季外れだったからだという人もいます。でもパウロはテモテへの手紙二でこう言っています。「神の御前でイエス・キリストの御名によって、私は厳かに命じます……時が良くても悪くても、それを続けなさい。」

マタイによる福音書 7 章 19 節
良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。

ここで、質問です。
内省のための質問 2
あなたは御霊の実が見えていますか？　生活の中で祈りの成果を得ていますか？　そして、霊的な戦いに勝っていますか？

キリストを信じている全ての人は、悪魔の企みをものともせずに、御霊の実を結んでいるはずです。これは、マタイによる福音書 21 章 22 節「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」の最も重要な教えです。

ヨハネによる福音書 15 章 16 節は、マタイによる福音書 21 章と同じ教えを説いています。
あなたがたが私を選んだのではない。私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るようにと、また、私の名によって願うなら、父が何でも与えてくださるようにと、私があなたがたを任命したのである。

あなたは、人生の勝利を祈りによって手にしていますか？　祈りの実りが見えていますか？

キリストにおいて、私たちは祈り、そしてイエスの御名によって父から必要なものを与えられるのです。イエスはまさにそう言っています。私たちは祈ることで悪魔の企みに打ち勝つことができるのだと。

なぜならあなたは信者として、主は良い方であり、救済の結果として霊的に成熟していくことを試されているからです。あなたには実が見えていなければいけません。もしそうでないならば、何かが足りないのです。

誤用
つまり、あなたの祈りの生活で何らかの応用のミスがあったのです。主を知り、祈りながらも、おそらく何かが欠けているのです。

思い返しましょう。赤ん坊の一番可愛らしい所はどこでしょうか。小さいことではありません。それは心に罪がなく、純粋であるところです。

神の祈りの家：それはあなたです
ヘブライ人への手紙の著者は、最初からイエスが何者か私たちに知ってほしいと強く願い、躊躇なく何者であるかを書いています。そしてヘブライ人への手紙を読むと、イエスの崇高で偉大な栄光を目の当たりにします。天使たちが皆、イエスを賛美していると書かれています。イエスの王座は永遠に続き、全ての物はイエスの足元にあります。イエスが何者かについての深い言葉が、ヘブライ人への手紙 2 章 9 節にあります。「ただ、「僅かの間、天使より劣る者とされた」イエスが、死の苦しみのゆえに、「栄光と誉れの冠を授けられた」のを見ています。神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれたのです。」

これこそがイエスが払ってくださった代価であり、わたしたちが神の御名において素晴らしい事を成すためではなく、それ以上の物を私たちに与えるためです。主イエス・キリストは地上に来て、天使よりも低い身分にされて、私たちの罪のために十字架に掛けられて死に、後に死から蘇りました。悔い改めによって、私たちの罪は清められました。キリストが神殿を清めたときのように。

エゼキエル書 36 章 25 節にはこう書かれています。「私があなたがたの上に清い水を振りかけると、あなたがたは清められる。私はあなたがたを、すべての汚れとすべての偶像から清める。」

さて、イエスが復活したとき、まだ神の計画は完成していませんでした。
イエスは去らなければなりませんでした。なぜでしょうか？

ヨハネによる福音書 16 章で、イエスは私たちに聖霊を送るために去らなければならないと言います。またそれだけではなく、エゼキエル書 36 章 26 節には「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたの内に新しい霊を授ける。」とあります。

これが鍵です。聖霊がいれば、神は天に居るだけではなく、ただの地上の支配者でもないのです。そう、神はあなたの近くにいます。遠く離れているわけではないのです。キリストにおいて、私たちの神との壊れた関係は修復されました。そしてエゼキエル書 36 章 27 節にあるように、神の掟に従って歩み、神の法を守り行うのです。神の霊である威光があなたの中にあるのです。つまり、あなたは聖霊の神殿であり、神の壮大な神殿なのです。あなたは主なる神の「祈りの家」なのです。

聖書には、こう書かれています。どのような時にも、霊によって祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気よく祈り続けなさい。エフェソの信徒への手紙 6 章 18 節

内省のための質問 3
あなたは祈りの生活で成長し、生きがいを感じていますか？　祈りが生活の一部になっていますか？　つまり一日のイベントの一つではなく、生き方の一部になっていますか？

そうあるべきです。イギリスの有名な牧師スポルジョンは言いました。「私は一回に5分以上祈ったことはないが、祈らずに5分以上過ごしたことはない」
祈るということは、親しい人と会話をするのと同じ、大ごとではありません。もしあなたが成果や御霊の実を結ぶような祈りの生活を送っていないのなら、神を知らないか、また知っていたとしても、このようには知ってないのかもしれません。

「神は彼らに、この秘義が異邦人の間でどれほど栄光に満ちたものであるかを知らせようとされました。」コロサイの信徒への手紙1章27節

説明：一つのほころび
アダムは、聖書の他の誰とも違った神との親密さがあったことに気づくでしょう。神がアダムを造り、彼に動物を与えて名前を付けさせました。どんな会話が交わされたのでしょうか。

その後、神はアダムとイブをデートさせて、二人は意気投合します。アダムは興奮しきって神に言います、「ああ、イブは僕にぴったりの女性です！」 そして神も彼らのところにやって来て、二人を結婚させます。二人はハネムーンに出かけます。でもしばらくすると、二人はエデンの園でぶらぶらして、神の存在から離れてしまいました。またはそう考えて、神とは話をしなくなりました。二人は誰と話しはじめたのでしょうか。神の敵です。悪魔がやってきて、二人と話しはじめたのです。悪魔は彼らに異端である悪魔の教義を教え、神に背くように彼らを欺きました。神は何か言えたはずです。でも何も言いませんでした。
このようなことが起こったのは、アダムが神と話すのを止めて、神はいないのだと信じたからです。 だから私たちは神との対話を止めずに、神の言葉に耳を傾けつづけなければならないのです。

正しい応用
では最後の応用です。聖霊を内に宿しつつ主イエスのもとに来て知りましょう。イエスと対話し、その言葉に耳を傾けて関係を深めていきましょう！ あなたがイエスを知れば、彼はそこにいます。

物事を複雑にしてはいけません。単純に、主イエスと話しはじめるだけで、あなたの人生は変わります。これが「祈りの家」として、あなたに与えられた新たなライフスタイルです。

TBCの祈りのミニストリー
TBCでは、毎週ふたつの祈りのミニストリーをやっていると知っていますか。
二つのミニストリーの一つは、「TBC House of Prayer」という祈るためのオンラインの集まりです。https://t-b-c.us/hopにアクセスすれば、参加できます。

もう一つは「Women in Prayer」というミニストリーで、互いや、自分の周りの人たちのために祈っています。連絡先のメールアドレスは、wip@tokyobaptist.org です。

最後の呼びかけ
イエスはあなたに新しい心を与え、あなたが良い実を結ぶことを望んでいます。イエスは、新たな命、豊かな永遠の命の源です。

イエスは、私はある、なのです。

もしイエスの声を聞いたら、心を頑なにせずに、彼のところへ来て命を見出してください。イエスを信頼すれば、主なる神の力と栄光をあなたの人生に見ることが出来ます。

最後に一節、引用します。

ルカによる福音書10章20節「しかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜んではならない。むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」

これが一番大切です。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https:/t-b-c.us/sg1722jp

★クラス301
（あなたの賜物を発見しよう！）
4月24日（日）13:00～17:00

★クラス401
（伝道方法を学ぼう！）
5月15日（日）13:00～17:00

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ申込み
http://t-b-c.us/sgsu